

2008 年度活動方針

今日、日本の政策、企業活動および消費行動が、地球上の様々な野生生物界に多大な悪影響を与えています。JWCS は、「野生の世界は野生のままに」という理念に立ち、「野生生物の利害の代弁」「安易な人為化を避ける」「予防原則を徹底する」という 3 つの基本原則に則って活動テーマを決定しています。第 1 には、地球規模の野生生物保全に対する日本の影響力がとりわけ大きい野生生物の商業利用問題に取り組むことです。第 2 には、保全の国際的フラッグシップとなっている野生動物とその生息環境を保全するフィールド活動を、啓発された日本の人々の手で支援できるようにすることです。第 3 には、以上の取組みによる成果が長期的に保障されるよう、日本の現世代・次世代を担う人々に野生生物保全に関する教育を受ける機会を提供することです。

JWCS は、この 3 つのテーマについて、それぞれ具体的な事業計画を立て、国内外の NGO 等と国際的に協力しつつ、調査研究、監視・提言、普及啓発・教育を行います。また、これらの事業のあり方は、JWCS の理念、基本原則を含む実践的理論研究によって不断に検証していきます。

2008 年度 事業計画

特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会

研究会の運営

1 理論研究会

本・ブックレットの出版

2 保全教育研究会

小学校～高校での授業、動物園、博物館での教育活動を目的とした保全教育実践ハンドブック出版

調査提言活動

1 野生生物保全情報のデータベース化

世界の野生生物保全の動向を把握する。

2 JUSTICE（日本における野生生物犯罪のデータベース化）

データの分析方法と公表・提言のあり方：調査研究担当理事、専門家（法律）による検討委員会を設置。データベース構築 と 第 1 次報告書の刊行

3 スローロリス販売状況調査

4 スローロリス等密輸ペット動物問題に関する国際シンポジウム

5 CITES（ワシントン条約）モニタリング

国内象牙・ユウタン市場の監視

生息地支援（トラ保護基金・ゾウ保護基金）

- 1 トラ保護基金・インド 200 万円
ナグジラ野生生物サンクチュアリ・ナウエアゴン国立公園コリドー プロジェクト
- 2 トラ保護基金・インド 170 万円
トラ保護区レンジャーへのパトロールキット支援およびワークショップ開催
- 3 トラ保護基金・インド 15 万円
インド側担当者（WTI）を日本に招聘し、報告会・イベントを実施
- 4 ゾウ保護基金・インド 150 万円
カルビ・アングロン丘陵 保護地域拡大・管理 プロジェクト
- 5 ゾウ保護基金・アフリカ支援について 150 万円
政治状況をよく検討し、支援を検討する。

普及啓発

- 1 総会後の講演会
- 2 ワイルドライフカレッジ（学生および一般向け講座の開催）
入門講座（年2回）基礎講座（年1回）実践講座（年2回）
- 3 出張授業
学校からの依頼に応じて実施しながら、機会拡大のための広報活動を行う
- 4 展示パネル貸出システムの整備
不足しているパネルの作成、パネル等展示用品のデータベース化、貸し出しシステム
の立ち上げ、宣伝、実施と評価
- 5 イベント出展
アフリカンフェスタ（5月）、みなと区民まつり（10月）、エコプロダクツ展（11月）な
ど、各プロジェクトと関連するイベントの NGO ブースに出展する。
- 6 阪神タイガースと岡田監督によるトラ保護基金支援活動の広報

会報発行

- 1 会報発行
活動報告版（年4回）論説版（年2回）
トラ保護基金・ゾウ保護基金支援者向け通信および年次報告書（各年1回）
- 2 ウェブサイト運営